

平成29年度 PDCAサイクルづくり支援事業
P調査の全県集計結果

教学指導課

1 調査教科及び調査した児童生徒数 ()内は参加校数

	国語		算数・数学		英語	
	人数	校数	人数	校数	人数	校数
小学校5年	12656人	(265校)	12583人	(265校)		
中学校1年			12743人	(141校)		
中学校2年	13239人	(143校)	13352人	(143校)	13343人	(144校)

2 各問の正答率 単位は%

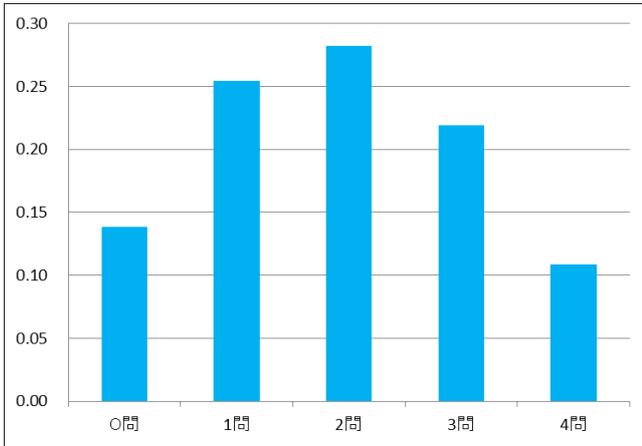
小学校5年	国語	1一	1二	2一	2二	
		64.4	43.1	56.3	26.6	
	算数	【1】	【2】	【3】	【4】(1)	【4】(2)
		73.7	17.2	23.1	86.4	38.4
中学校1年	数学	【1】	【2】	【3】	【4】(1)	【4】(2)
		88.2	94.9	35.9	74.7	43.9
中学校2年	国語	1一	1二	2一	2ニア	2ニイ
		73.8	60.1	44.5	78.6	61.2
	数学	【1】	【2】	【3】(1)	【3】(2)	【4】
		41.8	70.9	74.0	48.6	58.4
	英語	1【1】	1【2】	2【1】	2【2】	3
		49.3	89.9	57.2	38.1	35.7

3 正答数の分布 単位は%

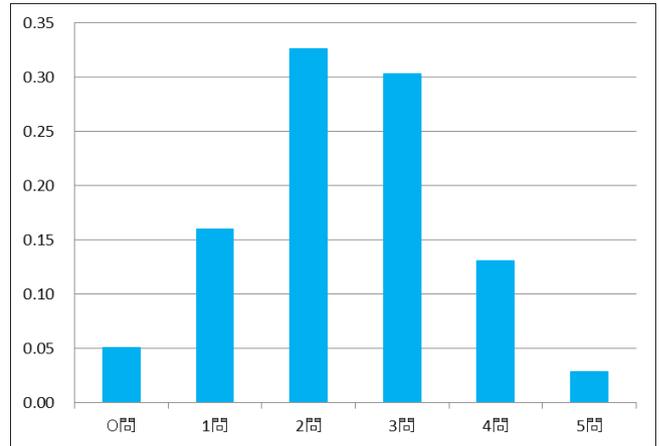
正解数	0問	1問	2問	3問	4問	5問
小学校5年国語	13.8	25.4	28.2	21.9	10.8	
小学校5年算数	5.1	16.0	32.6	30.3	13.1	2.9
中学校1年数学	0.8	4.3	16.6	30.9	29.7	17.8
中学校2年国語	2.9	8.2	17.9	26.5	28.1	16.5
中学校2年数学	3.6	12.4	21.9	25.3	22.4	14.4
中学校2年英語	3.4	17.1	24.8	24.7	20.4	9.3

正答数の分布グラフ (単位%)

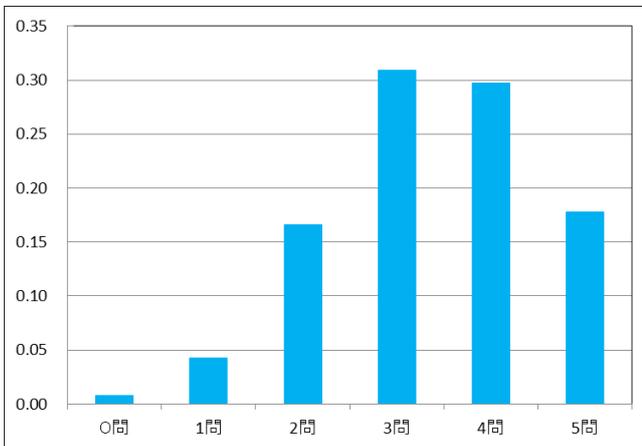
小5 国語



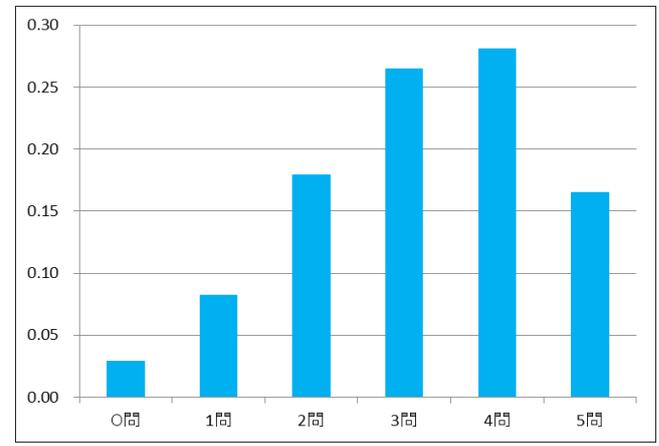
小5 算数



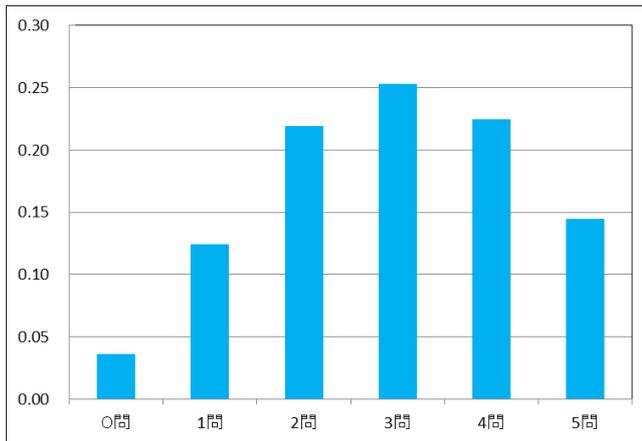
中1 数学



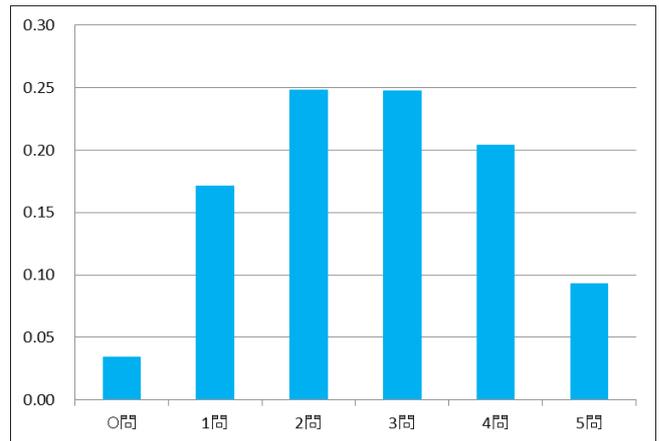
中2 国語



中2 数学



中2 英語



小学校5年国語 1

◆出題の意図

- ・ 図表やグラフから分かったことを書くことができるかどうかをみる。
- ・ 目的や意図に応じて、図表やグラフなどを用いて、根拠を示しながら自分の考えを書くことができるかどうかをみる。

◆学習指導要領との関連

〔第3学年及び第4学年〕 B 書くこと

ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由と事例を挙げて書くこと。

◆解答類型

(人) (%)

1	一	1 ◎	「3」と解答しているもの			
		9	上記以外の解答			
		0	無解答			
	二			(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「なぜその活動をするか」というと、「」に続けて、「と思うからです。」 につながるように45字以上、55字以内で書いている。 ② 【資料2】の結果をもとに、選んだ活動を行う理由を書いている。 (正答例)活動③ ・リクエストした本が図書館に置かれれば、読みたい本が見つからないという人にも本を借りてもらえる(46字)		
		1 ◎	条件①、②を満たしているもの			
		2	条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの (例)活動② ・読みたい本が見つからないという人がいるので、朝読書の時間にクラスごとに図書館利用をしてもらいたい→【資料2】の結果と、選んだ活動を行う理由が結びつかない。			
		3	条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの (例)活動① ・委員がすすめる本の紹介コーナーを見て、本にきょう味が無い人も、本をかりてもらいたい(41字)45字以上でない。 活動② ・図書館に行く時間がないという人がいるので、朝読書の時間にクラスごと図書館利用をして、たくさん本をかりてください(55字)「と思うから」につながらない。			
		9	上記以外の解答			
		0	無解答			

◎解答として求める条件をすべて満たしている正答

◆学習指導に当たって

○図表やグラフから分かったことを書く

図表やグラフなどを読み、分かったことを的確に書くには、情報を正しく読み取り、必要な情報について適切な言葉を用いて記述することが重要である。そのためには、社会科や算数科等で学習した図表やグラフの読み方を確認し、読み取ったことを的確に表現することができるように指導していくことが大切である。

具体的には、一つのグラフを取り上げて全体的な特徴や変化の特徴を捉える学習、複数の図表

やグラフを比較したり関係付けたりする学習などを通して、図表やグラフの読み方を理解することができるように指導することが考えられる。

さらに、読み取った情報を相手に分かりやすく伝えるための言葉を選択することも重要である。例えば、必要な数値を使って説明する場合、概略を示す言葉を（おおよそ、大抵が）を使って説明する場合、比較を示す言葉（上回る、下回る）を使って説明する場合などがある。これらの表現の内容の違いや効果を比べ、目的に応じて使い分けることができるように指導することが大切である。

○目的や意図に応じ、図表やグラフを用いて、自分の考えを書く

図表やグラフを用いて自分の考えを書く際には、図表やグラフなどから目的に応じて必要な情報を取り出し、比較したり関係付けたりしながら自分の考えを明確にすることが重要である。

具体的には、観察したり、実験したり、調査等を行ったりして得られた結果などの事実を図表やグラフで示し、自分がどのように読み取って分析したのか、そこからどのような考えをもったのかを具体的に記述するような学習が重要である。その際、図表やグラフの何に着目するのか、図表やグラフの中にあるどの数値や言葉を使って書くことが効果的であるのかを検討する必要がある。また、用いた図表やグラフとその分析内容が、自分の考えを明確に伝えるための根拠となっているかを確認していくことも大切である。

○「自分の考えを述べるために必要な図表やグラフを用いて書く」指導事例

1 何を伝えたいのか確認し、必要な情報を探す

自分の伝えたいことを明確にし、書名、目次、索引、見出し、手掛かりとなる言葉などに気を付けて、資料などを速く大まかに読む。

2 必要な情報がどこにどのように書かれているか見付けながら読む

図表やグラフの読み取りポイントに基づき、各自で、図表やグラフから読み取ったことをまとめる。

【図表やグラフなどを読み取る際のポイント】

- ① 何を表す図表やグラフなのか
- ② 図表やグラフの中にあるそれぞれの情報は何を表しているか
- ③ どの言葉や数字に注目するのがよいか
- ④ 注目する言葉や数字は何を意味するのか

3 見付けた情報によって自分の伝えたいことが伝わるか考えながら読む

「自分の伝えたいこと」と「図表やグラフから読み取ったこと」との照合について、説得力を高めているか確かめる。

4 選んだ図表やグラフ、絵、写真などの資料を用いて文章を書く

自分が選んだ図表やグラフ、絵、写真などは、伝えたいことに合っているかを考え、選んだ資料を用いて伝えたいことを書く。

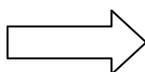
なんという資料から引用したのかを表やグラフの近くに書く。また、文章の最後に、参考にした資料名などを明記する。

(参照)

「平成 28 年度【小学校】解説資料」P60～P69

「平成 27 年度【小学校】授業アイディア例」P 6

補充・補完指導をしましょう



クリア問題:小5・1月 の活用

チャレンジ問題:小5・9月 の活用

◆出題の意図

- ・表を基に複数の叙述を関連付けながら、適切な情報を得ることができるかどうかをみる。
- ・叙述から場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら音読することができるかどうかをみる。

◆学習指導要領との関連

〔第3学年及び第4学年〕 C 読むこと

ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。

〔第3学年及び第4学年〕 C 読むこと

ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

◆解答類型

(人) (%)

2	一	1 ◎	A「わかい男の人(または、わかい男)」と解答しているもの		
		9	上記以外の解答		
		0	無解答		
	二		(正答の条件) 次の条件を満たして解答している ① 声に出して読むときに工夫することを書いている ② 想像した松井さんの気持ちを理由として取り上げている ③ 40字以上、60字以内で書いている (正答例) ・わたしは、力強く読みます。松井さんは、お客が山ねこでも、「送るべきだ」と決心して言っているからです。(50字) ・お客がだれであろうと送ろうと決心した後の松井さんのやる気を表現するために、ゆっくりと力強く読みたいです。(52字)		
		1 ◎	条件①、②、③を満たしているもの		
		2	条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもの		
		3	条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの ・わたしは、松井さんになったつもりで、はっきりうなずきながら、力強く読みたいです。(40字) *条件③を満たしているかどうかは不問とする		
		4	条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの ・松井さんは、お客が山ねこだったとしても、「送るべきだ」と決心して言っていると思います。(43字) *条件③を満たしているかどうかは不問とする		
		9	上記以外の解答		
		0	無解答		

◎解答として求める条件をすべて満たしている正答

◆学習指導に当たって

○登場人物の性格や気持ちの変化などを複数の叙述を基に捉える

物語を読む際は、登場人物の行動や会話など、複数の叙述を基にしながら、それぞれの登場人物の特徴や性格を押さえ、人物像を捉えることができるように指導することが必要である。

具体的には、登場人物の人物像を捉えるために、物語全体を通して人物像が分かる行動描写や会話などに印を付けたり線を引いたりし、それら複数の叙述を関係付けながら表に整理することなどが考えられる。各場面の様子に気を付けながら、場面と場面とを関係付け、登場人物の特徴や性格が分かる叙述を押さええていくことで、登場人物の人物像を多面的に捉えることができる。

シリーズとして刊行されている作品には、登場人物や状況設定など、共通した特徴をもつものが多い。シリーズの作品を重ねて読んでいくことで、そうした特徴に気付くことができると考えられる。

○ファンタジーを読み、感想を述べ合う指導事例

単元名「ファンタジーを楽しもう」

教材「ファンタジーのシリーズ作品『車のいろは空のいろ』（あまんきみこ作）

① ファンタジーのシリーズ作品から自分のお気に入りを見付け、学習課題を設定する。

② 特設した学級文庫を活用し、『車のいろは空のいろ』所収の作品を複数読む。

③ 『車のいろは空のいろ』所収の一つの作品「白いぼうし」について、以下のような点から繰り返し読み、自分の感想をまとめる。

・物語の展開を確かめながら ・心がひかれるところを確かめながら

・なぜ心がひかれるのか考えながら ・互いの好きな描写やその解釈を友達と交流しながら

④ 読書してきたシリーズの中から作品の一つを選び、③で行った読み方を用いながら、作品の心がひかれるところとそのわけをメモにまとめる。

⑤ 友達と感想を述べ合い、互いの感じ方を交流し、学習のまとめをする。

※ここでは、『車のいろは空のいろ』シリーズを取り上げましたが、この他にも様々なシリーズ作品が考えられます。

○様々な学習場面で音読を活用する

物語の魅力などが伝わるように音読するためには、場面の移り変わり、登場人物の行動や気持ちの変化を、叙述から捉えることが重要である。その際、自分のもっている知識や経験などと結び付けながら、繰り返し何度も声に出して読むことで、想像を広げたり理解を深めたりすることができると考えられる。

○授業で大事にしたいこと

① 音読は、学習の「目的」となる場合と、学習の「手段」となる場合があるため、単元を構想する際には、音読をどう位置付けるのか、指導目標と照らし合わせて考える。

② 児童が繰り返し音読することを通して、声の大きさや質、読む速さ、間の取り方などの観点に気付かせる。

③ 音読の工夫をする時には、「どうしてそのように音読したのか」と問い、その根拠を叙述から考えさせる。また、音読の工夫について学習する際に、傍線や記号などを使って視覚的に表現することなども考えられる。

④ 教師がモデルとなって、様々な音読の仕方を示すことも有効である。

⑤ 児童が自分の感じ方に合う音読の仕方を見つけることができるように、声に出して読むことを繰り返す。

⑥ 子どもたちが発見した音読の仕方を「学級の学びの財産」とする。

このような学習を通し、音読の楽しさを味わえるように指導したい。

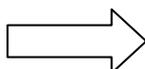
(参照)

「平成 28 年度【小学校】解説資料」P28

「言語活動事例集【小学校版】」P45～P46

「平成 27 年度【小学校】授業アイディア例」P7～P8

補充・補完指導をしましょう



チャレンジ問題:小5・4月 の活用

H28年度C調査問題:小5 の活用

小学校5年算数【1】

◆出題の意図

- ① 除法における計算の確かめの方法を理解しているかどうかみる。
- ② 形式的な計算処理の指導に比重がおかれ、除数、被除数、商の関係の理解を促す指導をする。

◆学習指導要領との関連

第3学年 A 数と計算

- (4) 除法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。
 - イ 除法と乗法や減法との関係について理解すること。

第4学年 A 数と計算

- (3) 整数の除法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。
 - エ 除法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

◆解答類型（◎は正答）

	㉞	㉟	㊱	人	%
1◎	26 と解答	1.4 と解答	36.4 と解答しているもの		
2◎	1.4 と解答	26 と解答			
3	36.4 と解答	1.4 と解答	26 と解答しているもの		
4	1.4 と解答	36.4 と解答			
5	36.4 と解答	26 と解答	1.4 と解答しているもの		
6	26 と解答	36.4 と解答			
9	上記以外の解答				
0	無解答				

◆学習指導に当たって

①この問題の補充・補完

レビュー問題：小3 ② 小4 ⑧⑫ 小5 ④

②授業改善

乗法と除法の相互関係から計算の結果を振り返る活動を位置付ける。その際、商が正しいかどうかを確かめる場合には、次の2つの方法があることを確認する。

- ① 除数と商をかけて被除数になるかを確かめる。
- ② 被除数を商でわって除数になるかを確かめる。

小学校5年算数【2】

◆出題の意図

- ① 除数と被除数に同じ数をかけて（小数）÷（小数）を（整数）÷（整数）に置き換えても、商は変わらないことを理解しているかどうかをみる。
- ② 乗数の性質についての指導が十分でないため、除数と被除数をそれぞれ10倍すると、商は、10分の1になると判断する児童を把握する。

◆学習指導要領との関連

第4学年 A 数と計算

(3) 整数の除法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。

エ 除法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

◆解答類型（◎は正答）

	㉑	㉒	㉓	人	%
1 ◎	24 と解答	4 と解答	4 と解答しているもの		
2			0.4 と解答しているもの		
3			0.04 と解答しているもの		
4			400 と解答しているもの		
5	2.4 と解答	0.4 と解答	0.4 と解答しているもの		
6			4 と解答しているもの		
7	類型1から類型6以外で、㉒と㉓に同じ数を解答しているもの				
8	類型1から類型7以外で、㉓に4と解答しているもの				
9	上記以外の解答				
0	無解答				

◆学習指導に当たって

①この問題の補充・補完

レビュー問題：小4 ②⑧ 小5 ④

②授業改善

除数及び被除数に同じ数をかけても、同じ数でわっても商は変わらないという除法の性質が成り立つことを確認した上で、小数の除法を整数の除法に置き換える活動を取り入れる。

例

① $21 \div 7$ の商と $210 \div 70$ の商が同じになることから、除法の性質が成り立つことを確かめる。

② $2.1 \div 0.7$ の商は $21 \div 7$ の商と同じになることを確かめる。

※具体的な場面と関連付けながら乗法の性質と除法の性質を比較し、2つの性質の理解を深める場を設ける。

小学校5年算数【3】

◆出題の意図

- ① 概数について理解し、目的に応じて用いることができるかどうかをみる。
- ② 目的に応じて、「四捨五入」「切り上げ」「切り捨て」を用いて思考・判断する指導を振り返る。

◆学習指導要領との関連

第3学年 A 数と計算

- (2) 概数について理解し、目的に応じて用いることができるようにする。
 - ア 概数が用いられる場合について知ること。
 - イ 目的に応じて四則計算の見積もりをすること。

◆解答類型（◎は正答）

	解答類型	人	%
	(正答の条件)「番号」を①と解答し、「理由」に次の①を書いている。 ① 金額を高く見積もっていること ② 三つの商品すべてについて述べていること。 または③と解答し、「理由」に以下のことが書いてあるもの ・百の位だけでも計算したら700円になったので、あと端数は、それぞれ100円にならないので300円にならないから1000円で購入。		
1 ◎	「番号」を①と解答し、「理由」に①と②を書いているもの		
2 ◎	「番号」を①と解答し、「理由」に①を書いているもの		
3 ◎	「番号」を③と解答し、「理由」に以下のことが書いてあるもの ・百の位だけでも計算したら700円になったので、あと端数は、それぞれ100円にならないので300円にならないから1000円で購入。		
4	「番号」を①と解答し、「理由」に四捨五入を書いているもの		
5	「番号」を①と解答し、「理由」が上記以外のもの及び無解答のもの		
6	「番号」を②と解答し、「理由」に四捨五入を書いているもの		
7	「番号」を②と解答し、「理由」が上記以外のもの及び無解答のもの		
8	「番号」を③と解答し、「理由」が上記以外のもの及び無解答のもの		
9	上記以外の解答		
0	無解答		

◆学習指導に当たって

- ①この問題の補充・補完
レビュー問題：小4 ⑪

②授業改善

日常生活の事象と関連付けて、「四捨五入」「切り上げ」「切り捨て」のそれぞれの意味と処理の仕方について、見積もりの結果と実際の数の和との大小関係から、目的に応じた判断ができるようにする。

例：見積もりの結果と実際の数の和との大小関係を視覚的（数直線）に捉える活動を取り入れる。
「四捨五入」「切り上げ」「切り捨て」のそれぞれの場合を数直線上に表し、実際の数の和と比べて考える。

小学校5年算数【4】(1)

◆出題の意図

- ① 示された場面から計算の結果の見通しをもち、(2位数) × (1位数) の筆算をすることができるかどうかをみる。
- ② 乗法の筆算の仕方について、指導を充実させる。

◆学習指導要領との関連

第3学年 A 数と計算

- (3) 乗法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。
- ア 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算の仕方を考え、それらの計算が乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。

◆解答類型 (◎は正答)

	解答類型	人	%
1	①と解答しているもの (□の中に7を入れた計算)		
2	②と解答しているもの (□の中に8を入れた計算)		
3◎	③と解答しているもの (□の中に9を入れた計算)		
9	上記以外の解答		
0	無解答		

◆学習指導に当たって

- ①この問題の補充・補完
レビュー問題：小3 ⑪⑰⑱

②授業改善

計算の結果に見通しをもち、乗法の計算が確実にできるようにして、大きな誤りを防ぐ。そのために、低学年のうちから、結果の見通しをもつことについて繰り返し指導する。また、結果の見通しについて、振り返ることも大切にする。

小学校5年算数【4】(2)

◆出題の意図

- ① 示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。
- ② 式や言葉を用いて、計算する方法を説明する指導を充実させる。

◆学習指導要領との関連

第2学年 A 数と計算

- (1) 数の意味や表し方について理解し、数を用いる能力を伸ばす。
エ 一つの数を他の数の積としてみるなど、他の数と関係付けてみること。

第3学年 A 数と計算

- (3) 乗法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。
ウ 乗法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

第4学年 A 数と計算

- (3) 四則に関して成り立つ性質についての理解を深める。
ア 交換法則、結合法則、分配法則についてまとめること。

◆解答類型 (◎は正答、○は準正答)

	解答類型	人	%
	(正答の条件) 次の①, ②, ③, ④の全てを書いている。 ① 24が 3×8 または 8×3 であることを示す式や言葉 ② 37×24 の積が 37×3 の8倍であることを示す式や言葉 ③ (37×24 の積が) 111の8倍であることを示す式や言葉 ④ 積が888であることを示す数や言葉		
1◎	さとしさんの説明を基に、①, ②, ③, ④のすべてを書いているもの		
2◎	よし子さんの説明を基に、①, ②, ③, ④のすべてを書いているもの		
3○	さとしさんの説明を基に、①, ②, ③または①, ②, ④を書いているもの		
4○	よし子さんの説明を基に、①, ②, ③または①, ②, ④を書いているもの		
5	②, ③, ④または①, ②または②, ③または②, ④または②を書いているもの		
6	①, ③, ④または①, ③または①, ④を書いているもの		
7	計算の工夫を書いているが、 $37 \times 3 = 111$ ($37 \times 6 = 222$) を基にしていないもの		
8	37×24 を筆算で計算しているもの		
9	上記以外の解答		
0	無解答		

◆学習指導に当たって

- ①この問題の補充・補完
レビュー問題：小3 ⑰ 小4 ⑦
- ②授業改善

きまりを用いて合理的、効率的に処理したり、きまりを用いるよさを説明したりする機会を位置付ける。

例：本設問を用いて

- ① $37 \times 3 = 111$ を基に 37×24 の積が888になることを説明する活動
- ② 37×24 の積が888になることを説明する中で、 $37 \times 24 = 37 \times (3 \times 8)$ と表す理由を考える場や、さらにそれを $(37 \times 3) \times 8$ と変形してもよい理由を考える場等を位置付ける。